慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	早坂喜一郎著 銀価と銀為替
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1925
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.19, No.5 (1925. 5) ,p.802(128)- 803(129)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19250501-0129

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新著紹介

外國爲替の見方

山崎靖純著、三六判三二四頁
定價一圓五十錢、日本評論社發行

銀價と銀爲替

早坂喜一郎著、菊判三二〇頁
定價四圓五十錢、大阪屋號發行

兩書共に國際金融に關する問題を取扱つたものであつて、前者は稍や廣き範圍に亙り、後者は極めて狹き範圍に限られた研究である。然も兩書の著者は何れも本學經濟學部の出身者であつて、殆ど同時に同一種類に屬する問題に就て、著書を公にされたことは、紹介者たる私の欣幸とする所である。

外國爲替の事たる、表面から窺へば、甚だ複雜であつて、多くの人は門に入りながら、堂に上らずして、早くも之を不可解とするようであるが、序を逐うて、攻究の歩を進めれば、書物を通じて、理解すること、必ずしも難しとしない。往年英國人クレーヤ氏の「外國爲替のABC」と題する書物が廣く世に行はれ、近時增補された事實に徵しても、讀易き手引草のあることの必要であるは論を俟たざる所である。唯外國爲替の根本原理は國に依つて、異なる道理はないが、實際の取引や、用語に至つては國に依つて多少の相違があり、現に支拂勘定の建方を基礎とした說明が受取勘定の建方を取る國の人々に取つては、徒に頭腦を混亂せしめる所以と爲るが如き、此適例であつて、外國爲替の初歩の研究者には外國の書物や、其飜譯書や、若しくは直譯流の燒き直しでは甚だ不向きである。此點から私は外國爲替に充分の理解ある人に依つて日本を中心として、記述した邦語外國爲替論の著作されることを希望して、已まなかつた、山崎氏の新著「外國爲替の見方」は即ち私の多年感じた渴望を充たすものである。本書に於て、章を分つこと十一、外國爲替に關する大小の問題は總て網羅され、實際に即した說明が最も平易なる文字を以つて、記述され、說明を補うに書式や、圖式を用ひて居り、初學の者にも一讀能く問題を理解せしめるに足ると思はれる。外國爲替の國際金融に於ける地位職分等に就ては、取つて以つて參考とす可き幾多の書物が外國にある。本書は是等の研究者にも、又基礎的知識を得ようとする初學者にも、一讀の價値あることを信ずる。私は我國民が本書に記述された程度の外國爲替に關する知識を備へて居つたならば、金禁輸問題の解決に就て、彼れまでの失態を繰返しては居るまいと云ふ感を懷かざるを得ない。

銀價幷に銀爲替の問題は山崎氏の著書第六章に取扱はれて居るが、他諸章との權衡上、記述の簡單なることは、已むを得ない。然しながら銀價の決定若しくは其騰落の事たる、單に金貨國に於ける定位銀貨流通の安否を支配するばかりの問題ではない、支那と金貨國との爲替相場は之に依つて左右されるし、印度、墨西哥、支那の經濟社會に於ける狀勢も亦銀貨の如何に依つて、動かされざるを得ない。外國に於ては、例へばイーストン、スポールヂヰング氏の銀爲替又は東洋爲替に關する有益なる著書が行はれて居る所以である。早阪氏の新著「銀價と銀爲替」は詳細に此問題を研究したものであつて、記述の關係上、倫敦、紐育、孟買、上海等の銀塊市場に關する狀況が最も巧妙に說明されて居り、銀價と支那の財政若しくは借款政策との關係にも相當の研究が拂はれて居る。單に銀と云ふ狹き研究に局限されずして、東洋諸國の經濟事情を對衆として居る點に於て、本書の價値は一段の加はれるものありとす可きである。

私は我學部の出身者中、實務に從事する人々が其餘暇に於て、斯る眞面目の研究を公にされたことに對し、衷心喜悅の情を感せざるを得ない。（堀江歸一）